opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 -60

1947年にオプス・デイは、教会の中に新して生まれたがとないう形を取しているというには結びしているにはないではないではながでした。と書いてははなること書いてあることました。

2024/09/20

過去の記事はこちらから

1928年と30年に神が聖ホセマリアに見せたことは、あらゆる身分や職業の人が自分の仕事や家庭の義務をとができるという教えでした。1947年にオプス・ディは、教会の中に新りまれた在俗会には結婚している。とはなでした。しかし、聖のおいませんでした。しかし、聖のおいませんでした。しかし、皇のおいませんでした。した。とに気がつきました。

これを根拠にして、オプス・デイには独身のメンバー(ヌメラリ婚生がで、専門職だけでなく結プストを聖化する仕方でオプススススの精神を生きるメンバーの表生ででいるとで、聖ホセマリアが夢みになって、聖ホセマリアが会活動でいるとで「社会にキリストの平和」

をもたらすという理想が実現できる ようになるのです。

聖ホセマリアは最初の頃から「結婚 への召し出しがある | と言っていま した(『道』27)。そして、霊的指 導に来る若者を結婚生活に導くこと も少なくありませんでした。その一 人が、1937年にピレネー越えに参加 したトマス・アルビラです(33話参 照)。トマスはすでに創立者に霊的 指導を受けていました。大学卒業 後、高校の教師になりました。婚約 者がいましたが、内戦で別れ別れに なり、戦争が終わると結婚しまし た。しかし同時に聖性への道を歩む ことを望んでいました。その間も創 立者の指導を受け続けていました が、既婚者の入会を認める法的根拠 がないためオプス・デイに加入でき ませんでした。

1948年3月教皇庁は、聖ホセマリアの申請を許可しました。同年10月、

トマスは、同じく長い間創立者の指導を受けていた他の二人とともにオプス・デイに加入し、長年の夢を果たしたのです。その後、教師を続け、同時に多くの学校の設立に貢献しました。

(写真。トマス一家。後列左から三人目と四人目がトマス夫婦。夫婦はすでに他界。<u>列福調査が始まっています</u>。そのほかは二人の子どもで、みなヌメラリー)。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-60/(2025/11/20)